

2020年度LET関西支部秋季研究大会

オンライン開催(Zoom)

2020年12月19日 (土)

基調講演：外国語教員のためのインストラクショナルデザイン

鈴木 克明 先生 (熊本大学)



概要：インストラクショナルデザイン(ID:授業設計学)は教育工学領域で何を誰に教えるときにも使える汎用的な研究知見をモデル化・理論化してきた。本講演では、ARCSモデル、IDの第一原理などを紹介し、メディア環境の変化で再定義が求められている外国語教育の授業設計の視点を提案する。

略歴：熊本大学教授・教授システム研究センター長。国際基督教大学卒、Ph.D (教授システム学、フロリダ州立大学)。日本教育工学会会長、教育システム情報学会顧問、日本イーラーニングコンソシアム名誉会員など。主著に『学習設計マニュアル』(共編著)、『学習者中心の教育を実現するインストラクショナルデザイン理論とモデル』(監訳)などがある。

主 催：外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部

<http://www.let-kansai.org/>

参加費：無料

懇親会：大会終了後、Zoomで1時間程度を予定(無料)。

申 込：URLからの登録 (先着250名)

(<https://peatix.com/group/7562751/view>)

ワークショップ1 「教育工学者の視点から外国語教育を考える」

村上 正行 先生 (大阪大学)

概要：コロナ禍においてオンライン授業が一気に行われるようになり、教育工学分野の果たす役割は大きい。また、このような状況も含め、デジタルトランスフォーメーションが進む中で、外国語教育のあり方も問い直されていると考えられる。本報告では、教育工学の研究を紹介しながら、外国語教育でのICT活用について考える契機とすることを目的とする。

専門：教育工学、大学教育学。博士(情報学)。

略歴：京都大学総合人間学部卒業、京都大学大学院情報学研究科博士後期課程指定認定退学。2002年京都外国語大学外国語学部講師、マルチメディア教育研究センター准教授、教授などを経て、2019年より現職。大学教育を対象にした教育データ分析、ICTを活用した教育、FDに関する研究に従事。日本教育工学会理事、教育システム情報学会理事、大学教育学会評議員など。



ワークショップ2 「GIGAスクール構想が学びに与えるインパクトとは何か」

豊福 晋平 先生 (国際大学<GLOCOM>)

概要：本ワークショップでは、情報環境整備とICTを扱うための教授指導力という典型的な教育提供側視点を離れ、むしろ、学習者側の生活や将来職能といった社会的文脈の関連性から学びを読み解くとともに、初中等教育のGIGAスクール経験が高等教育に与える影響までを考察する機会としたい。

略歴：一貫して教育情報化をテーマとして取り組み、近年は、北欧諸国をモデルとした学習情報環境(1:1/BYOD)の構築に関わる。主なプロジェクトとして、全日本小学校ホームページ大賞(J-KIDS大賞)(2003~2013)、文部科学省・緊急スクールカウンセラー等派遣事業・東日本大震災被災地のための学校広報支援「ともしびプロジェクト」(2011~)など。GIGAスクール構想に関する自治体ICT検討委員会委員(横浜市・名古屋市)、導入に関わる講演等多数。

